

# 学生会員の

# 声

## ● 拝啓 化学工学様、結婚してください! ●

「幸せ」とはなんだろうか。生きていれば誰もが一度は考えたことがあるだろう。私は化学工学の中にこの命題を解くヒントがあると思う。

私が化学工学の道に進んだのは大学2年生のコース選択の時だった。ちょうど大学デビューを目指して頑張っていた人も本来の身の丈に合ったポジションに落ち着く頃である。以来大学院2年生の今まで約4年間連れ添ってきた化学工学は人生の恋人のような存在であるかもしれない。だがその恋人を選択した理由は高尚なものではなく、ただ有機、無機系を回避して選んだだけであった。大学1年生などは妥協してその辺の異性と付き合う人が多いが、私が化学工学の道を選んだ理由も同レベルであった。

しかし人生というものは巡り合わせが大切なもので、妥協に妥協を重ねて付き合った恋人が実は運命の相手だった、ということもある。私にとっては化学工学がまさにそうだ。

化学工学とは何か。化学工学会のホームページの言葉を借りれば、物質収支などの方法論が横糸、材料などの対象分野を縦糸とする多次元的体系を持つものが化学工学であるらしい。

化学工学においては「全体を見る」ことが大切とされる。「私の考えた最強プロセス」を実現するにはプロセス全体を見て、必要なところから必要な技術を持ってきて、なおかつ全体の調和を取ることが求められる。この幅広い視野は化学工学に限らず社会に出ても役立ちそうな気がする。

しかし、そんなお役立ち学問である化学工学が私はニガテだった。授業で一通り習ったが、同期が次々と理解して「ここはこうだね」と鼻の穴を膨らませながら語っているのを尻目に、私はいつも思っていた。「なんだこれ？ 全く分からないにゃ!」と。テストの度に必死に勉強してなんとか合格する日々だった。確信してテストの答えを書くことはほとんどなかったが、「私に化学工学は向いていない」ということだけはいつも確信していた。

そんな私でも化学工学ってすごい!と思う瞬間は勿論あった。工場見学で製鉄所を見学させて頂いた時である。巨大な溶鉱炉。長大な圧延装置。私は初めて掛け算ができた時のような興奮を覚え、「やっぱり私が骨を埋めるのはここだ!」と熱くなった。

しかし鉄は熱いうちに打てとはよく言ったものである。人の熱意などというものはそんなに長く持続しない。私が熱くなったのもほんの2、3日。数日後には全く理解できなかった授業の数々を思い出し、やはり化学工学は向いていない、と改めて思ったのだった。

実際同期を見ていても、全員が化学工学の知識を活かして技術者になるわけではない。3分の1くらいの人は文系就職をし、化学工学以外の道に進んでいる。しかし、直接知識を使わなくても前述のように、化学工学の思考プロセスは何にでも応用できる。だから技術者にならずとも私は胸を張って卒業するのだ!

と、思っていたのだが人生はそうすんなり行かない。結局私は化学工学の知識を使うメーカーに就職することになった。バリバリの技術者である。知らず知らずのうちに化学工学の縦糸と横糸にがっしりと絡めとられていた私は、最後の最後で「やっぱり技術者がよくね?」と気の迷いを生じてしまったのである。

会社に入れば1日当たり8時間、週に40時間化学工学と共に過ごすことになる。それを約40年間だ。場合によっては家族や友人などよりも長い時間を化学工学と過ごすことになるだろう。4年間付き合った恋人である化学工学の結婚相手への昇格である。

ここで冒頭の命題に戻りたい。化学工学と幸せの関係である。「幸福とは、考えること、言うこと、行動が調和している状態である (Happiness is when what you think, what you say and what you do are in harmony.)」と言ったのはインドの政治指導者、ガンジーだ。先に述べたように、この「調和」は化学工学でも極めて大切なところだ。プロセス全体の調和を取らなければプロセスは成り立たない。調和を取って初めて定常状態に至ることができる。ここに幸せの秘訣があると思う。成長主義が叫ばれる世の中ではあるが、いつまでも高みを目指しては永遠に満足できず、永遠に満ち足りた気持ちになることはないだろう。

「足るを知る」という言葉もある。できないことをしようとするのもいいが、調和が取れた定常状態、全ての人が何かと比較せず、おのれのありのままに幸せを感じられればきっと素晴らしい世界になるに違いない。そう、化学工学の定常状態にこそ、この世の幸せのヒントが詰まっていたのだ!

というような適当なことを言ってきたが、とにかく就職しても化学工学を使うのは確定している。なので幸せになるために大好きな化学工学様、私と結婚してください!

(京都大学大学院工学研究科化学工学専攻 秋岡孝紀)